(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2004-57267
(P2004-57267A)
(43)公開日　平成16年2月26日(2004.2.26)

(51)Int.Cl.[7]	F I	テーマコード（参考）
A63F 7/02	A63F 7/02 304Z	2C088

審査請求 未請求　請求項の数 1　ＯＬ　（全 18 頁）

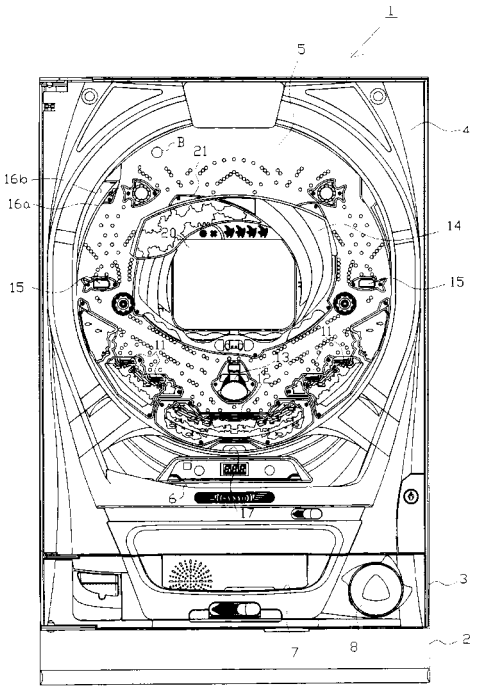
(21)出願番号　特願2002-216269(P2002-216269)
(22)出願日　平成14年7月25日(2002.7.25)

(71)出願人　000144522
株式会社三洋物産
愛知県名古屋市千種区今池３丁目９番２１号
(74)代理人　100111095
弁理士　川口　光男
(72)発明者　原田　紀彦
愛知県名古屋市千種区今池３丁目９番２１号　株式会社三洋物産内

Ｆターム(参考)　2C088 DA07 DA09 EA11 EA28

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【要約】
【課題】複数の基板を備えた遊技機において、設置スペース上の制約を低減でき、構造の簡素化を図る。
【解決手段】パチンコ機１の遊技盤５には、その略中央部において可変表示装置１４が取着されている。可変表示装置１４は、液晶表示部２０と、該液晶表示部２０を囲むようにして設けられたセンターフレーム２１とを有している。センターフレーム２１は、前ベース枠、後ベース枠及びステージ部材等を備える。上部の報知表示部の基部には、２つの基板が取付けられている。基部は複数の係止手段を有しており、２つ基板は係止手段によって係止された状態で取付けられる。少なくとも１つの係止手段は、２つの基板を共通係止可能に構成されている。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数の係止手段を有する取付部材に対し、複数の基板が前記係止手段によって係止された状態で取付けられてなる遊技機において、
少なくとも１つの係止手段は、２以上の基板を共通係止可能に構成されていることを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、パチンコ機等の遊技機に関するものである。
【０００２】
【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】
従来、パチンコ機等の遊技機にあっては、所定の遊技領域を有する遊技盤を備えている。かかる遊技盤をはじめとして、遊技機の種々の箇所には各種基板が取付けられている。基板には、例えばランプが取着されているランプ用基板、各種制御を司る制御用基板等が含まれる。
【０００３】
近年、遊技に際しての興趣の向上を図るべく、遊技盤等において多くの役物が搭載される傾向にあり、これによって多種多様の演出が導出され、ひいては、遊技者にとっての面白味の増大が図られている。一方で、それに比例して多くの基板を取付ける必要がある。昨今では、多くの基板を配設するにあたり、その設置スペースに関し制限が課せられているという実状がある。また、基板の取付けられる取付部材に関しても、多くの基板が取付けられる構成とすることで、自身の構造の複雑化を招いてしまうおそれもある。かかる意味で、基板の設置に関し効率化を図る必要がある。
【０００４】
かかる課題は、パチンコ機に限られるものではなく、演出効果の要求される各種遊技機全般にわたって内在するものである。
【０００５】
本発明は、上記した事情に鑑みてなされたものであり、複数の基板を備えた遊技機において、設置スペース上の制約を低減でき、構造の簡素化を図ることの可能な遊技機を提供することを１つの目的とするものである。
【０００６】
【課題を解決するための手段及び発明の効果】
上記の目的を達成するために有効な手段を以下に示す。なお、必要に応じてその作用、効果等についても言及する。
【０００７】
手段１．複数の係止手段を有する取付部材に対し、複数の基板が前記係止手段によって係止された状態で取付けられてなる遊技機において、
少なくとも１つの係止手段は、２以上の基板を共通係止可能に構成されていることを特徴とする遊技機。
【０００８】
手段１によれば、複数の係止手段を有する取付部材に対し、複数の基板が係止手段によって係止された状態で取付けられる。手段１では、少なくとも１つの係止手段によって、２以上の基板が共通して係止される。従って、その分だけ係止手段の数の低減を図ることができ、取付部材自身の構造の簡素化を図ることができる。また、相異なる基板が１つの係止手段で共通係止されることから、基板がいわば隣接状態で配置されることとなる。つまり、基板間の隙間を極力低減することが可能となる。そのため、複数の基板を１つの取付部材に取付けるにあたり、設置スペース上の制限を受けにくくすることができる。
【０００９】
手段２．取付部材に対し、複数の基板が取付けられてなる遊技機において、

前記取付基板は、第１の基板のみを係止するための第１係止手段と、第２の基板のみを係止するための第２係止手段と、前記第１及び第２の基板を併せて係止可能な共通係止手段とを備えていることを特徴とする遊技機。

【００１０】

手段２によれば、第１の基板は、第１係止手段及び共通係止手段によって係止され取付けられる。また、第２の基板は、第２係止手段及び共通係止手段によって係止され取付けられる。すなわち、１つの共通係止手段によって、２つの基板が共通して係止される。従って、その分だけ係止手段の数の低減を図ることができ、取付部材自身の構造の簡素化を図ることができる。また、第１及び第２の基板が１つの共通係止手段で共通係止されることから、第１及び第２の基板がいわば隣接状態で並列配置されることとなる。つまり、基板間の隙間を極力低減することが可能となる。そのため、複数の基板を１つの取付部材に取付けるにあたり、設置スペース上の制限を受けにくくすることができる。

【００１１】

手段３．取付部材に対し、第１及び第２の基板が並列状態で取付けられてなる遊技機において、

前記取付基板は、第１の基板の一方の側部を係止するための第１係止手段と、第２の基板の一方の側部を係止するための第２係止手段と、前記第１の基板の他方の側部及び第２の基板の他方の側部を併せて係止可能な共通係止手段とを備えていることを特徴とする遊技機。

【００１２】

手段３によれば、１つの取付部材に対し、第１及び第２の基板が並列状態で取付けられる。特に、第１の基板は、第１係止手段によって一方の側部が係止され、共通係止手段によって他方の側部が係止されることで取付部材に取付けられる。また、第２の基板は、第２係止手段によって一方の側部が係止され、共通係止手段によって他方の側部が係止されることで取付部材に取付けられる。すなわち、１つの共通係止手段によって、２つの基板が共通して係止される。従って、その分だけ係止手段の数の低減を図ることができ、取付部材自身の構造の簡素化を図ることができる。また、第１及び第２の基板が１つの共通係止手段で共通係止されることから、第１及び第２の基板間の隙間を極力低減することが可能となる。そのため、複数の基板を１つの取付部材に取付けるにあたり、設置スペース上の制限を受けにくくすることができる。

【００１３】

手段４．前記第１係止手段及び共通係止手段間の距離と、前記第２係止手段及び共通係止手段間の距離とが相違していることを特徴とする手段２又は３に記載の遊技機。

【００１４】

手段４によれば、互いに長さ（幅）の相違する第１及び第２の基板を取付けるに際し、取付箇所を間違えてしまうことがない。

【００１５】

手段５．第１及び第２の基板は、前記共通係止手段に対し先に係止された上で第１係止手段、第２係止手段に係止されるよう構成されていることを特徴とする手段２乃至４のいずれかに記載の遊技機。

【００１６】

手段５によれば、一方の基板を取付けた後に、他方の基板を取付けるに際し、既に取付けられた基板の取付状態の安定性が損なわれてしまうといった事態が生じにくい。

【００１７】

手段６．前記第１係止手段は前記第１の基板に固有のものであり、前記第２係止手段は前記第２の基板に固有のものであることを特徴とする手段２乃至５のいずれかに記載の遊技機。

【００１８】

手段６によれば、各基板の取り外し作業を比較的行いやすくすることができる。

【００１９】

手段７．前記共通係止手段は、相対向する基板を係止可能となっていることを特徴とする手段２乃至６のいずれかに記載の遊技機。

【００２０】

手段７によれば、一方の基板を取付けた後に、他方の基板を取付けるに際し、既に取付けられた基板の存在により、撓みにくくなる。よって、共通係止手段が折れたりしてしまうことが起こりにくく、安定した取付状態を保持することができる。

【００２１】

手段８．前記各係止手段は、前記取付部材に対し一体的に形成されたものであることを特徴とする手段１乃至７のいずれかに記載の遊技機。

【００２２】

手段８のように、各係止手段が取付部材に対し一体的に形成されたものである場合、隣接しあう基板の係止手段が互いに別のものであると、両者間の隙間が狭いほど加工に困難性を伴いがちである。この点、上記各手段のように、２つ基板が共通して係止されるよう構成することで、１つの係止手段を一体形成すればよいため、隙間云々の問題が生じない。結果として、係止手段を設けるにあたり加工上の困難性を払拭することができる。例えば、取付部材を金型を用いて成形するような場合には、金型の構造が複雑なものとはなりにくく、上記作用効果が顕著なものとなる。

【００２３】

手段９．前記取付部材は、遊技盤の遊技領域に装着される所定の装置の一部に設けられるものであり、前記各基板は、前記所定の装置にて行われる演出用の基板であることを特徴とする手段１乃至８のいずれかに記載の遊技機。

【００２４】

手段９によれば、遊技盤の遊技領域に装着される所定の装置の一部に設けられる取付部材に複数の基板が設けられる場合、遊技領域の狭小化が懸念されるところであるが、上記各手段のように、効率よく基板を配設せしめることができることから、取付部材、ひいては所定の装置の大型化により遊技領域の狭小化を抑制できる。また一方で、複数の基板が演出用の基板であることから、比較的狭い領域において多彩な演出を導出することができ、結果として興趣の向上を図ることができる。

【００２５】

手段１０．前記所定の装置は、表示装置の周囲に配設されるセンターフレームであることを特徴とする手段９に記載の遊技機。

【００２６】

手段１０によれば、所定の装置が表示装置の周囲に配設されるセンターフレームのような枠体である場合、一般に取付部材の大きさに制限が課せられやすい。これに対し、上述のように、基板を効率よく配設できることから、取付基板が比較的小さなものであっても、その領域を最大限活用した上で、より充実した演出内容を導出することができる。

【００２７】

手段１１．前記各基板は、互いに異なる演出用の基板であることを特徴とする手段１乃至１０のいずれかに記載の遊技機。

【００２８】

手段１１によれば、複数の基板が互いに異なる演出用の基板であることから、１の取付部材において、互いに異なる演出がそれぞれ導出されることとなり、結果として興趣の向上を図ることができる。

【００２９】

手段１２．前記取付部材は、遊技機の裏面側に配設される制御装置の一部として設けられるものであり、各基板は該制御装置における制御用の基板であることを特徴とする手段１乃至８のいずれかに記載の遊技機。

【００３０】

手段１２によれば、遊技機の裏面側に配設される制御装置の一部として設けられる取付部材に対し、効率よく複数の制御用の基板を配設せしめることができることから、取付部材

、ひいては制御装置自身の小型化、コンパクト化を図ることができ、遊技機裏面側をすっきりしたものとすることができる。

【００３１】

手段１３．前記取付部材には、少なくとも前記各基板の面方向の位置決めを行うための位置決め手段が前記各係止手段とは別に設けられていることを特徴とする手段１乃至１２のいずれかに記載の遊技機。

【００３２】

手段１３によれば、取付部材には、各係止手段とは別に位置決め手段が設けられており、これにより、各基板の少なくとも面方向の位置決めを行うことができる。そのため、係止手段の数を増やすことなく、取付けられた基板の位置ずれを防止することができるとともに、取付に際しては確実に所定位置に取付けることができる。その結果、係止手段の数を最小限に抑えることができ、ひいては、取付部材の構造の一層の簡素化を図ることができる。

【００３３】

手段１４．前記位置決め手段は、前記各基板の取付方向の位置決めも行いうるよう構成されていることを特徴とする手段１３に記載の遊技機。

【００３４】

手段１４によれば、位置決め手段によって、各基板の取付方向の位置決めも行われる。従って、係止手段及び位置決め手段双方によって、各基板の取付状態の安定性を高めることができる。

【００３５】

手段１５．手段１乃至１４のいずれかにおいて、遊技機はパチンコ遊技機であること。中でも、パチンコ遊技機の基本構成としては、操作ハンドルを備えていてそのハンドル操作に応じて遊技球を所定の遊技領域に発射させ、遊技球が遊技領域内の所定の位置に配置された作動口に入賞することを必要条件として可変表示装置の表示部において変動表示されている識別情報が所定時間後に確定停止表示されることが挙げられる。また、特別遊技状態発生時には遊技領域内の所定の位置に配置された可変入賞装置が所定の態様で開放されて遊技球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球等のみならず、磁気カードへの書き込み等も含む）が付与されることが挙げられる。なお、この場合、遊技盤は、外枠に対し開閉可能に支持された前面枠に装着される。

【００３６】

手段１６．手段１乃至１４のいずれかにおいて、遊技機は回胴式遊技機であること。ここで、回胴式遊技機の構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列（具体的にはリールであり、識別情報はリールに付されたシンボルである）を変動表示（具体的にはリールの回動である）した後に識別情報を確定停止表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して或いは所定時間経過することにより識別情報の変動が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段を備えた回胴式遊技機」となる。なお、回胴式遊技機にあっては、前記リール等を具備する可変表示手段を可変表示装置として捉えてもよいし、前記リールとは別途設けられ、前記識別情報に対応する（疑似的な対応であってもよい）識別情報を表示可能な表示装置（例えば液晶表示装置）をここにいう可変表示装置として捉えてもよい。

【００３７】

手段１７．手段１乃至１４のいずれかにおいて、遊技機はパチンコ機とスロットマシンとを融合させた遊技機であること。中でも、前記融合させた遊技機の基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列（具体的にはリールであり、識別情報はリールに付されたシンボルである）を変動表示（具体的にはリールの回動である）した後に識別情報を確定停止表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起

因して或いは所定時間経過することにより識別情報の変動が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技媒体として遊技球を使用するとともに、前記識別情報の変動開始に際しては所定数の遊技球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの遊技球が払い出されるよう構成されてなる遊技機」となる。なお、かかる遊技機にあっては、前記リール等を具備する可変表示手段を可変表示装置として捉えてもよいし、前記リールとは別途設けられ、前記識別情報に対応する（疑似的な対応であってもよい）識別情報を表示可能な表示装置（例えば液晶表示装置）をここにいう可変表示装置として捉えてもよい。なお、この場合、外枠に対し開閉可能に支持された前面枠にリール等が装着される。

【００３８】

【発明の実施の形態】

以下、パチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）の一実施の形態を、図面に基づいて詳細に説明する。

【００３９】

図１に示すように、パチンコ機１は、外枠２と、該外枠２の前部に設けられ外枠２の一側部にて開閉可能に支持された前面枠３とを備えている。

【００４０】

前面枠３の前面側にはガラス扉枠４が開閉自在に設けられている。前面枠３の後側（ガラス扉枠４の奥、外枠２の内側）には、遊技盤５が着脱可能に装着されている。

【００４１】

ガラス扉枠４の下方には、遊技球Ｂを貯留するための球受皿としての上皿６が設けられている。また、前面枠３の前面下部には、ほぼ中央部において球受皿としての下皿７が設けられている。下皿７の側方には、遊技球発射用ハンドル８が設けられている。ハンドル８は図示しない遊技球発射装置に連結されており、遊技者がハンドル８を回転させることにより、遊技球Ｂが遊技球発射装置から発射される。

【００４２】

遊技盤５には、ルータ加工が施されることによって複数の開口部が形成されており、各開口部には、普通入賞チャッカー１１、可変入賞装置１２、作動チャッカー１３、可変表示装置１４、スルーチャッカー１５等が配設されている。

【００４３】

遊技盤５の一側部には、遊技球発射装置によって発射される遊技球Ｂを遊技盤５の上部に案内する内レール１６ａ及び外レール１６ｂが設けられている。内レール１６ａの下端部付近において、遊技盤５には遊技球Ｂを導出するアウト口１７が形成されている。そして、遊技盤５の下部に流下した遊技球Ｂの多くは、このアウト口１７を通って図示しない球排出路へと案内される。本実施の形態では、遊技盤５のうち内レール１６ａ及び外レール１６ｂによって囲まれ、可変表示装置１４等が配設された部分が、遊技球Ｂが流下可能な遊技領域となっている。

【００４４】

さて、可変表示装置１４は、液晶表示部２０と、該液晶表示部２０を囲むように設けられたセンターフレーム２１とを備えている。

【００４５】

液晶表示部２０には、例えば左図柄列、中図柄列及び右図柄列の３つの表示列が表示される。各図柄列は識別情報としての複数の図柄によって構成されており、これら図柄が各図柄列毎にスクロールするように可変表示される。

【００４６】

より詳しくは、可変表示装置１４の下方に設けられた作動チャッカー１３に遊技球Ｂが入球することに基づいて、可変表示装置１４の液晶表示部２０の図柄が可変表示される。そして、停止された図柄の組合せが予め設定した特定の組合せとなった場合には特別遊技価値が付与される。すなわち、大当たり状態が発生し、可変入賞装置１２の大入賞口が所定

の開放状態となり（具体的には所定時間、所定回数だけ開く）、遊技球Ｂが入賞しやすい状態になる。なお、可変入賞装置１２は、通常、遊技球Ｂが入賞できない状態又は入賞し難い状態になっている。

【００４７】

また、周知のとおり、前記普通入賞チャッカー１１、可変入賞装置１２、作動チャッカー１３に遊技球Ｂが入球することに基づいて、上皿６又は下皿７に対し所定数の景品球（遊技球Ｂ）が払い出される。また、遊技盤５には、遊技球Ｂの流下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘（但し便宜上、符号を省略する）が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）が配設されている。上記釘や風車等によって本実施の形態における案内手段が構成される。

【００４８】

次に、上記センターフレーム２１について図２乃至図４を参照しつつ説明する。センターフレーム２１は、中央部が前後方向に貫通した前ベース枠２２及び後ベース枠２３を備え、全体として枠形状となっている。

【００４９】

後ベース枠２３の中央部には前記液晶表示部２０に対応した略矩形状の窓枠部２４が形成されている。窓枠部２４の周囲には、その前端部から遊技盤５に沿って略平板状の上板部２５、右板部２６、左板部２７及び下板部２８が延出されている。

【００５０】

上板部２５は、その左側周縁部が窓枠部２４の左上端部近傍から上方に向かって延び、上側周縁部が窓枠部２４の左端部近傍から左右方向略中央部までの範囲にかけてほぼ窓枠部２４の上辺部に沿って形成され、右側周縁部が前記上側周縁部の右端部近傍から窓枠部２４の右上端部近傍に向けて下方に傾斜しているように形成されている。

【００５１】

右板部２６は、その上側周縁部が上板部２５の右側周縁部から連なって右方向に向かって下方へ傾斜し、右側周縁部が上側周縁部の右端部から窓枠部２４の右下端部近傍に向けて緩やかに湾曲しているように形成され、全体として下方に向かうにつれ先細りした形状となっている。

【００５２】

左板部２７は、その上側周縁部が窓枠部２４左上端部近傍から左方向に向かって延び、左側周縁部が窓枠部２４の上端部近傍から上下方向略中央部をやや過ぎた位置までの範囲においてほぼ窓枠部２４の左辺部に沿って形成され、下側周縁部が左側周縁部の下端部から窓枠部２４の左下端部近傍に向けて緩やかに湾曲しているように形成されている。

【００５３】

下板部２８の下側周縁部は左右両板部２６，２７の周縁部から連なるように下に凸の略円弧形状となっている。

【００５４】

さて、右板部２６には前後方向に貫通した右開口部３０が設けられている。右開口部３０は右板部２６に対しかなりの領域を占め、その形状も右板部２６と略同一形状となっている。右開口部３０には当該右開口部３０と略相似形状の右透光パネル３１が取着されている。右透光パネル３１は、略同一形状の前パネル３２、後パネル３３及び保護パネル３４が重ね合わされた複層構造となっている。重ね合わせの順序は前方より保護パネル３４、前パネル３２、後パネル３３の順となっている。各パネル３２，３３，３４は、本実施の形態においては透光性を有する透明又は半透明の樹脂により形成されている。但し、前パネル３２、後パネル３３は、透光性を有する部材で有れば、樹脂に限らず他の材質のもの例えばガラス等でもよい。

【００５５】

図５に示すように、前パネル３２の前面側（光の出射面側）、後パネル３３の背面側（光の入射面側）には、それぞれ複数の直線状凸部３５が設けられている。本実施の形態では、前後両パネル３２，３３における各直線状凸部３５はその断面形状が略半円形状をなし

、所定方向に沿って延びている。詳しくは、前パネル３２では、鉛直方向に対して斜め４５度左下がりの傾きに沿って延びた複数の直線状凸部３５が列状に並んでいる。後パネル３３では、鉛直方向に対して斜め４５度右下がりの傾きに沿って延びた複数の直線状凸部３５が列状に並んでいる。従って、前後両パネル３２，３３が重ね合わされた状態では、前後両パネル３２，３３に設けられた直線状凸部３５は互いに略直交した状態となる。なお、前後両パネル３２，３３における直線状凸部３５の配列ピッチは後述するＬＥＤ４３の大きさと比較してより微細なものとなっている。

【００５６】

同様に、左板部２７にも左開口部３７が設けられ、当該左開口部３７には左透光パネル３８が取着されている。なお、左透光パネル３８の構成は、上記右透光パネル３５と略同一のためその説明を省略する。

【００５７】

一方、後ベース枠２３の背面側には各種電飾部材が取着されている。詳しくは、右板部２６の背面側には電飾部材を配設するための右側部取付部材４０が取着されている。右側部取付部材４０は、電飾部材が係止される係止板４１と、当該係止板４１から前方に向けて突出した複数の支柱部４２とを有している。右側部取付部材４０は、各支柱部４２の先端が右板部２６の背面に当接した状態で所定の固定手段により固定されている。従って、電飾部材が前記右透光パネル３１から所定間隔をおいて配置されることとなる。本実施の形態では、電飾部材として、係止板４１の前面側において複数のＬＥＤ４３を有する右側部ＬＥＤ基板４４が取着されている。

【００５８】

一方、左板部２７の背面側にも同様に、左側部ＬＥＤ基板４５が左側部取付部材４６を介して取着されている。従って、左側部ＬＥＤ基板４５も同様に左透光パネル３８から所定間隔をおいて配置されることとなる。

【００５９】

さらに、上板部２５の右側周縁部及び右板部２６の上側周縁部の上方の後方位置において、右上側部ＬＥＤ基板４７が右上部取付部材４８を介して取着されている。なお、右上部取付部材４８も係止板５０及び複数の支柱部４９を有しており、各支柱部４９の先端は上板部２５又は右板部２６の背面に当接状態で固定されている。また、右上部取付部材４８の係止板５０は、前記右側部取付部材４０の係止板４１と略面一となるように配置されている。従って、右上部ＬＥＤ基板４７の配置位置と、右側部ＬＥＤ基板４４の配置位置とは前後方向に略同一位置となっている。

【００６０】

さて、前ベース枠２２は、その下部において上記遊技盤５の開口部にはめ込まれる嵌込み部５１と、その上部において嵌込み部５１と連なった上梁部５２とを備えている。嵌込み部５１は、右板部２６の右側周縁部、左板部２７の左側周縁部及び下板部２８の下側周縁部に沿って形成され、略Ｕ字形状となっている。嵌込み部５１及び上梁部５２の周囲には遊技盤５面上に配設される複数のフランジ部５３が形成されている。

【００６１】

上梁部５２は、その両側部が嵌込み部５１の左右両端部より略上方に向かって延出され、その中央部が上に凸の略円弧形状となっている。上梁部５２の前面側には、当該上梁部５２のほぼ全域において、前方に向けて突出した天井部５４が設けられている。天井部５４の頂上部には遊技球Ｂが通過可能な開口部５５が形成されている。

【００６２】

上梁部５２の左側部には内方向に延出された下垂部５７が設けられている。下垂部５７の下側周縁部は、上梁部５２の左端部近傍から右方向に向けて延び、右方向に向かうにつれ上方に向けて緩やかに湾曲し、さらに右方向に向かうにつれ徐々にその傾きが略水平方向、斜め右下方向へとなるように緩やかに湾曲した形状となっており、その右端部が前記開口部５５の右端部の下方位置をやや越えた位置まで達している。また、開口部５５の右端部近傍から下方へ延出された下垂部５７の右側周縁部は、所定位置より前記下側周縁部の

右端部に向けて斜め右下がりに傾斜している。

【００６３】

下垂部５７の前面側には各種役物が取着され、背面側には前記役物を駆動させる駆動機構が設けられている。詳しくは、図６に示すように、下垂部５７の背面側には取付凹部６０が形成されている。取付凹部６０内には駆動伝達部材６１が左右方向に摺動可能に取着されている。駆動伝達部材６１は、上下方向に延びる縦軸部６２と、縦軸部６２の下端部より左側（図６における右側）へ摺動方向に沿って延びる左操作部６３と、縦軸部６２の上端部より右側へ摺動方向に沿って延びる右操作部６４とから構成されている。

【００６４】

縦軸部６２には前後方向に貫通し上下方向に長い縦長孔６５が設けられている。左操作部６３と右操作部６４にはそれぞれ前後方向に貫通し摺動方向に長い左長孔６６、右長孔６７が形成されている。当該長孔６６，６７にはそれぞれ下垂部５７の背面側から突出したボス６９，７０が差し込まれている。

【００６５】

下垂部５７には、ボス６９の左側、ボス７０の右側においてそれぞれ前後方向に貫通し摺動方向に長い略円弧状の左円弧長孔７１、右円弧長孔７２が形成されている。各円弧長孔７１，７２は下に凸となる円弧形状となっている。

【００６６】

円弧長孔７１，７２に対応するように、左操作部６３及び右操作部６４の先端部にはそれぞれ前後方向に貫通し上下方向に長い左端長孔７３、右端長孔７４が形成されている。

【００６７】

下垂部５７の背面側には、前記取付凹部６０を覆い、駆動伝達部材６１の脱落を防止する取付カバー７５が取着されている（図２等参照）。取付カバー７５には、上記縦軸部６５の位置に対応して前後方向に貫通した略円形の開口部７５ａが形成されている。

【００６８】

取付カバー７５の背面側には開口部７５ａの後方においてモータ７６が取着されている。モータ７６の回転軸の先端部には開口部７５ａに差し込まれる円盤体７７が取着されている。円盤体７７の前面側にはモータ７６の回転軸線上から外れた位置において前方へ突出した棒状凸部７８が設けられている。棒状凸部７８は上記縦長孔６５に差し込まれている。

【００６９】

一方、下垂部５７の前面側には複数の薄板状の装飾パネル８０が取着され、その前面側には上記左円弧長孔７１、右円弧長孔７２の位置に対応してそれぞれ宇宙船をモチーフにした大可動部材８１、中可動部材８２が回動可能に軸支されている。なお、各装飾パネル８０には左円弧長孔７１、右円弧長孔７２に対応した図示しない孔部が形成されている。さらに、中可動部材８２の右側には宇宙船をモチーフにした小固定部材８３が取着されている。下垂部５７の前面側には、透明又は半透明の役物カバー８５が取着されている。役物カバー８５は、下垂部５７と略同一形状で断面凹形状に構成されており、その右側壁部８６は下垂部５７の右側周縁部に沿って傾斜している。

【００７０】

ここで大可動部材８１及び中可動部材８２に関連した構成部分について詳しく説明する。大可動部材８１及び中可動部材８２の上部にはそれぞれ前後方向に貫通した軸孔８７，８８が形成されている。軸孔８７，８８にはそれぞれ軸棒８９，９０が差し込まれている。下垂部５７の前面側及び役物カバー８５の背面側には、軸棒８９を受ける一対の軸受け部９１，９２、軸棒９０を受ける一対の軸受け部９３，９４がそれぞれ相対向するように形成されている。

【００７１】

大可動部材８１及び中可動部材８２の背面側には、それぞれ軸孔８７，８８の下方において、上記左円弧長孔７１、右円弧長孔７２の位置に対応するように棒状の操作子９５，９６が後方に向けて突出形成されている。操作子９５，９６はそれぞれ左円弧長孔７１、右

円弧長孔７２を介して上記左端長孔７３、右端長孔７４に差し込まれている。

【００７２】

上記構成に基づき、モータ７６が回転すると、この回転動作が円盤体７７を介して駆動伝達部材６１に伝達され、駆動伝達部材６１が左右方向に往復動する。そして、駆動伝達部材６１の往復動作が操作子９５，９６を介して大可動部材８１、中可動部材８２に伝達される。大可動部材８１、中可動部材８２は軸棒８９，９０を中心に往復回動する。

【００７３】

さて、下垂部５７の下部には、前ベース枠２２の左右方向略中央部において報知表示部１００が取着されている。報知表示部１００は、下垂部５７に固定された取付部材としての基部１０１と、基部１０１の前面側に取着された透光性レンズ１０２と、透光性レンズ１０２の前面側を覆う被覆部１０３と、基部１０１の背面側に取付けられた報知用ＬＥＤ基板１０４Ａ，１０４Ｂとにより構成されている。

【００７４】

報知用ＬＥＤ基板１０４Ａ，１０４Ｂには複数のＬＥＤ１０５Ａ，１０５Ｂが設けられている。基部１０１には各ＬＥＤ１０５に対応した複数の孔部１０６Ａ，１０６Ｂが形成され、透光性レンズ１０２の前面側には各ＬＥＤ１０５Ａ，１０５Ｂに対応して複数の絵柄が象られている。被覆部１０３には前記各絵柄と略同一形状の絵柄孔１０７Ａ，１０７Ｂが形成されている。

【００７５】

下垂部５７の右側には、上記嵌込み部５１の右端部より上記右板部２６の上側周縁部に沿って延出された天板部１１０が設けられている。天板部１１０の先端部は下垂部５７の右端部に連接されている。天板部１１０の略中央部には上下方向に貫通した監視孔１１２が形成されている。これにより、下垂部５７の右側において長窓部１１３が形成される。長窓部１１３は上記右上部ＬＥＤ基板４７の前方に位置している。

【００７６】

長窓部１１３には当該長窓部１１３と略同一形状の右上透光パネル１１５が取着されている。なお、右上透光パネル１１５の構成は、上記右透光パネル３１や左透光パネル３８とほぼ同様のためその説明を省略する。

【００７７】

さて、前ベース枠２２の右側部には、前記右透光パネル３１及び右上透光パネル１１５の前面側を覆うように透光性を有するレンズカバー１１７が取着されている。本実施の形態では、レンズカバー１１７と、右透光パネル３１及び右上透光パネル１１５とよって囲まれた空間部分によって、上記開口部５５を通過した遊技球Ｂをセンターフレーム２１下部へと案内する球案内流路が形成される。

【００７８】

レンズカバー１１７は、その前面部において、前ベース枠２２の右内側部に沿って湾曲形成された右レンズ部１１８と、右レンズ部１１８の左側部に沿って形成された中レンズ部１１９と、中レンズ部１１９の左側部に沿って形成された左レンズ部１２０とを有している。

【００７９】

各レンズ部１１８，１１９，１２０は、その上端部が上記天井部５４にまで達しており、左右方向の幅が下方に向かうにつれ先細りしている。右レンズ部１１８及び中レンズ部１１９の下端部は上記窓枠部２４の右下端部近傍にまで達しており、左レンズ部１２０の下端部は右中レンズ部１１８，１１９の下端部よりやや上方に位置している。

【００８０】

また、前後方向に対して、各レンズ部１１８，１１９，１２０は、下方に向かうにつれその前面部がより後方へ位置するように緩やかに湾曲している。各レンズ部１１８，１１９，１２０の上端部近傍における前面部は天井部５４の前端部近傍に位置している。右レンズ部１１８及び中レンズ部１１９の下端部は窓枠部２４の前後方向略中央部に位置しており、左レンズ部１２０の下端部は右板部２６の前面部近傍に位置している。

【００８１】
左レンズ部１２０の左側部には、当該左側部から後方へ延出された左側壁部１２１が設けられている。左側壁部１２１の外面には前後方向に沿って延びた複数の直線状凸部１２２が列状に並んで形成されている。
【００８２】
左側壁部１２１は、上記下垂部５７の右端部（上記天板部１１０）より上部分が下垂部５７の形状に合わせて切り欠かれ当該下垂部５７に当接し、それより下部分が前記右板部２６に当接している。
【００８３】
左レンズ部１２０の右側部と中レンズ部１１９の左側部との間には段差が形成されており、中レンズ部１１９がより前方に位置している。当該段差部分には中側壁部１２３が形成されている。
【００８４】
同様に、中レンズ部１１９の右側部と右レンズ部１１８の左側部には段差が形成されており、右レンズ部１１８がより前方へ位置している。当該段差部分には右側壁部１２４が形成されている。また、中右側壁部１２３，１２４の外面には、左側壁部１２１同様に、複数の直線状凸部１２２が形成されている。なお、中側壁部１２３の下端部は遊技球Ｂが通過可能なように切り欠かれている。
【００８５】
左レンズ部１２０の上端部には、上記天井部５４と役物カバー８５との前面側の隙間を覆う被覆部１２５が設けられている。
【００８６】
レンズカバー１１７の背面側には、右レンズ部１１８及び中レンズ部１１９を仕切る右リブ１２６と、中レンズ部１１９及び左レンズ部１２０を仕切る左リブ１２７とが設けられている。これにより、レンズカバー１１７には、右レンズ部１１８、中レンズ部１１９、左レンズ部１２０の背面側において、それぞれ遊技球Ｂが通過可能な右溝部１２８、中溝部１２９、左溝部１３０が形成される。
【００８７】
右リブ１２６及び左リブ１２７は、上記天板部１１０より上部分が切り欠かれ上記右上透光パネル１１５に当接し、それより下部分の一部が上記右透光パネル（保護パネル３４）に当接している。
【００８８】
右リブ１２６の長手方向略中央部より下部全域が切り欠かれ、右溝部１２８と中溝部１２９との間を遊技球Ｂが通過可能となっている。また、左リブ１２７の下端部近傍における一部分が切り欠かれ、中溝部１２９と左溝部１３０との間を遊技球Ｂが通過可能となっている。
【００８９】
一方、保護パネル３４の前面側には、右リブ１２６及び左リブ１２７の切り欠き部分に対応して、誘導リブ１３３と規制リブ１３４とが設けられている。誘導リブ１３３は、遊技球Ｂを左溝部１３０から中溝部１２９へと誘導可能なように段階的にその傾斜角度を変化させつつ右下がりに形成されている。規制リブ１３４は、誘導リブ１３３によって誘導される遊技球Ｂの右方向へ動きを規制するように上下方向に沿って形成されている。
【００９０】
上記構成により、上記開口部５５を通過した遊技球Ｂは、上記役物カバー８５の右側壁部８６に沿って右方向へ流下し、左溝部１３０内へと導かれる。当該遊技球Ｂは左溝部１３０に沿って流下し、誘導リブ１３３及び規制リブ１３４によって中溝部１２９へと導かれる。そして、当該遊技球Ｂは右溝部１２８又は中溝部１２９に沿って流下し、上記中側壁部１２３の切り欠き部より後述するステージ部材１４５へと排出される。
【００９１】
一方、後ベース枠２２の左板部２７（左透光パネル３８）の前面側には、装飾カバー１３

８が取着されている。装飾カバー１３８は、上記レンズカバー１１７の下部と略左右対称形状となっている。

【００９２】

さて、嵌込み部５１の下部には、上記下板部２８の下側周縁部の形状に合わせて凹部１４０が形成されている。凹部１４０の左右方向略中央部には、遊技球Ｂを上記作動チャッカー１３の方へ誘導可能な誘導路１４１が形成されている。誘導路１４１は、後部が遊技球Ｂほぼ１つ分の幅に、前部が遊技球Ｂ複数個分の幅に構成されている。また、誘導路１４１の前端部には遊技球Ｂが通過可能な開口部１４２が形成されている。

【００９３】

前ベース枠２２の嵌込み部５１の下部には、凹部１４０を覆うようにしてステージ部材１４５が取付けられている。

【００９４】

前記ステージ部材１４５のステージ面（上面）は、左右方向に沿って左右両端部から中央部に向かうにつれ下方へ傾斜し、谷部を経てさらに中央に向かうにつれ上方へ傾斜し、左右方向中央部の山部が凸状に形成されている。つまり、ステージ面は、波状に形成された連続的な湾曲面となっている。当該左右方向中央部（山部）には後方に向けて傾斜した傾斜部１４６が形成されている。一方、後ベース枠２３には、傾斜部１４６に対応するように、窓枠部２４及び下板部２８の左右方向略中央部において誘導溝１４７が形成されている。誘導溝１４７は誘導路１４１の後部に連通している。

【００９５】

上記構成により、例えば上記球案内流路より排出された遊技球Ｂはステージ部材１４５上を転動する（例えば左右に往復転動する）。そして、山部に乗り上げた一部の遊技球Ｂは、傾斜部１４６、誘導溝１４７及び誘導路１４１を通って上記作動チャッカー１３の方へ誘導されるようになっている。

【００９６】

ここで、上記報知表示部１００の詳細について図７，８等に基づいて説明する。上述したように、基部１０１には、２つの報知用ＬＥＤ基板１０４Ａ，１０４Ｂが取付けられている。ここで、一方の報知用ＬＥＤ基板１０４Ａは第１の基板を構成し、他方の報知用ＬＥＤ基板１０４Ｂは第２の基板を構成するものである。第１の基板たる報知用ＬＥＤ基板１０４Ａは、４つのＬＥＤ１０５Ａを備えており、これらは所謂保留ランプを構成する。すなわち、前記作動チャッカー１３に遊技球Ｂが入球することに基づいて、可変表示装置１４の液晶表示部２０の図柄が変動表示されることはすでに説明したが、この変動表示中にさらに遊技球Ｂが作動チャッカー１３に入球した場合には、その分の変動表示は、現在行われている変動表示の終了後に行われる。つまり、変動表示が待機（保留）される。この保留される変動表示の最大回数として、本実施の形態では４回に設定されており、その数に対応したＬＥＤ１０５Ａが前記報知用ＬＥＤ基板１０４Ａに取着されている。ＬＥＤ１０５Ａは、変動表示の保留毎に順次累積的に点灯させられ、その保留に対応した変動表示の実行に伴い順次消灯させられる。

【００９７】

また、第２の基板たる報知用ＬＥＤ基板１０４Ｂは、２つのＬＥＤ１０５Ｂを備えており、これらは所謂抽選ランプを構成する。すなわち、スルーチャッカー１５を遊技球Ｂが通過することに基づいて、２つのＬＥＤ１０５Ｂが交互に点滅表示を繰り返し、所定時間後にいずれか一方が点灯状態とされ他方が消灯状態とされる。そして、所定の側のＬＥＤ１０５Ｂが点灯状態とされたときには、一時的に前記作動チャッカー１３が開放されるようになっている。

【００９８】

なお、各報知用ＬＥＤ基板１０４Ａ，１０４Ｂには、それぞれコネクタ１６０Ａ，１６０Ｂが搭載され、そこに、図示しないケーブルコネクタが接続される。

【００９９】

続いて、上記各報知用ＬＥＤ基板１０４Ａ，１０４Ｂの基部１０１に対する取付構造につ

いて説明する。前記基部１０１の一方の端部側には、係止手段、第１係止手段を構成する第１係止部１６１が突設されている。また、基部１０１の他方の端部側には、係止手段、第２係止手段を構成する第２係止部１６２が突設されている。これら各係止部１６１，１６２の先端には、互いに内側に向くようにして係止爪１６３，１６４が一体形成されている。

【０１００】

また、前記基部１０１における前記第１係止部１６１及び第２係止部１６２を結ぶ直線上の所定位置には、係止手段、共通係止手段を構成する共通係止部１６５が突設されている。共通係止部１６５は、台座部１６６、及び、台座部１６６からさらに延びる係止爪１６７を備えている。係止爪１６７は、先端側ほど拡径されている。

【０１０１】

さらに、前記基部１０１の各係止部１６１，１６２，１６５とは別の部位には、位置決め手段を構成する複数の位置決め突起１７１，１７２が一体形成されている。位置決め突起１７１，１７２は、前記台座部１６６と同じ高さ（突出量）を有する円柱状の台座部１７３と、台座部１７３上に突出形成されたピン部１７４とを備えている。

【０１０２】

一方、前記各報知用ＬＥＤ基板１０４Ａ，１０４Ｂは、略矩形状をなしているとともに、前記各ピン部１７４に対応する複数の位置決め孔１８１，１８２を有している。

【０１０３】

そして、各報知用ＬＥＤ基板１０４Ａ，１０４Ｂは、位置決め孔１８１，１８２に各位置決め突起１７１，１７２のピン部１７４が嵌め込まれた状態で各係止部１６１，１６２，１６５によって係止されることで、基部１０１に取付けられている。すなわち、報知用ＬＥＤ基板１０４Ａに関しては、一方の側部が第１係止部１６１にて係止され、他方の側部が共通係止部１６５に係止された状態で取付けられている。また、報知用ＬＥＤ基板１０４Ｂに関しては、一方の側部が第２係止部１６２にて係止され、他方の側部が共通係止部１６５に係止された状態で取付けられている。

【０１０４】

ここで、上記各報知用ＬＥＤ基板１０４Ａ，１０４Ｂの取付手順の例について説明する。本実施の形態では、第１係止部１６１、第２係止部１６２の方が、共通係止部１６５よりも幾分撓みやすくなっている。そこでまず、第１の基板たる報知用ＬＥＤ基板１０４Ａに関しては、前記他方の側部を、共通係止部１６５の台座部１６６及び係止爪１６７間に嵌め込む。このとき、共通係止部１６５近傍の位置決め突起１７１に位置決め孔１８１が嵌め込まれることで、基板面方向への位置決めが行われる（位置ずれが規制される）。そして、前記一方の側部を、第１係止部１６１の係止爪１６３に係止させる。この係止に伴い、残りの位置決め突起１７１に残りの位置決め孔１８１が嵌め込まれる。各位置決め突起１７１は、前記共通係止部１６５の台座部１６６と同じ高さを有する台座部１７３を備えているため、前記嵌め込みの完了に伴い、報知用ＬＥＤ基板１０４Ａの取付方向への位置決めも行われることとなる。

【０１０５】

また、第２の基板たる報知用ＬＥＤ基板１０４Ｂに関しても、前記他方の側部を、共通係止部１６５の台座部１６６及び係止爪１６７間に嵌め込む。このとき、上記同様、共通係止部１６５近傍の位置決め突起１７２に位置決め孔１８２が嵌め込まれることで、基板面方向への位置決めが行われる（位置ずれが規制される）。そして、前記一方の側部を、第２係止部１６２の係止爪１６４に係止させる。この係止に伴い、残りの位置決め突起１７２に残りの位置決め孔１８２が嵌め込まれる。各位置決め突起１７２は、前記共通係止部１６５の台座部１６６と同じ高さを有する台座部１７３を備えているため、前記嵌め込みの完了に伴い、報知用ＬＥＤ基板１０４Ｂの取付方向への位置決めも行われることとなる。

【０１０６】

このように、本実施の形態によれば、１つの基部１０１に対し、互いに異なる２つの報知

用ＬＥＤ基板１０４Ａ，１０４Ｂが並列状態で取付けられる。特に、第１の基板たる報知用ＬＥＤ基板１０４Ａは、第１係止部１６１によって一方の側部が係止され、共通係止部１６５によって他方の側部が係止されることで基部１０１に取付けられる。また、第２の基板たる報知用ＬＥＤ基板１０４Ｂは、第２係止部１６２によって一方の側部が係止され、共通係止部１６５によって他方の側部が係止されることで基部１０１に取付けられる。すなわち、１つの共通係止部１６５によって、２つの基板１０４Ａ，１０４Ｂが共通して係止される。従って、その分だけ係止部の数の低減を図ることができ、基部１０１自身の構造の簡素化を図ることができる。

【０１０７】

また、各基板１０４Ａ，１０４Ｂが１つの共通係止部１６５で共通係止されることから、両基板１０４Ａ，１０４Ｂ間の隙間を極力低減することが可能となる。そのため、複数の基板１０４Ａ，１０４Ｂを１つの基部１０１に取付けるにあたり、設置スペース上の制限を受けにくくすることができる。特に、本実施の形態のような、センターフレーム２１という比較的限られた領域において、基部１０１が設置される構成の場合には、共通係止部１６５を設けることによる省スペース化の効果は、効率よく基板１０４Ａ，１０４Ｂを設置できるといった点で、飛躍的に高められる。

【０１０８】

また、各係止部１６１，１６２，１６５は、基部１０１に対し一体的に形成されたものである。ここで、隣接しあう基板を係止する係止手段が互いに別のものであると、両者間の隙間が狭くなるほど加工（例えば金型の設定、加工）に困難性を伴いがちである。この点、本実施の形態のように、２つ基板１０４Ａ，１０４Ｂが共通係止されるよう構成することで、１つの共通係止部１６５を一体形成すればよいため、隙間云々の問題が生じない。結果として、加工上の困難性等を払拭することができる。

【０１０９】

さらに、本実施の形態では、基部１０１に対し、位置決め突起１７１，１７２を各係止部１６１，１６２，１６５とは別に設けらることとしている。このため、各基板１０４Ａ，１０４Ｂの面方向の位置決め及び取付方向の位置決めを行うことができる。そのため、係止部の数を増やすことなく、取付けられた基板１０４Ａ，１０４Ｂの位置ずれを防止することができるとともに、取付に際しては確実に所定位置に取付けることができる。その結果、係止部１６１，１６２，１６５の数を最小限に抑えることができ、ひいては、取付部材の構造上の一層の簡素化を図ることができる。

【０１１０】

尚、上述した実施の形態の記載内容に限定されず、例えば次のように実施してもよい。

【０１１１】

（ａ）上記実施の形態では、センターフレーム２１に設けられるランプ用（演出用）の基板１０４Ａ，１０４Ｂを取付ける場合について具体化している。これに対し、遊技領域、遊技盤５のうち、他の領域に設けられる基板の取付に具体化することもできる。また、前面枠３やガラス扉枠４に基板が取付けられる場合にも具体化してもよい。

【０１１２】

（ｂ）また、遊技機の表側に設けられる場合のみならず、裏面側に複数の基板が設けられる場合にも具体化してもよい。例えば、パチンコ機の裏面側には、各種制御装置が設置されるのが一般的であるが、かかる制御装置の一部として設けられる取付部材（例えば１つの制御基板ボックス）に対し、複数の制御用の基板を取付ける場合に具体化することも可能である。この場合、基板ボックス、ひいては、制御装置自身の小型化、コンパクト化を図ることができ、パチンコ機の裏面側をすっきりしたものとすることができる。

【０１１３】

（ｃ）上記実施の形態では、２つの基板１０４Ａ，１０４Ｂを取付ける場合について具体化しているが、３つ以上の基板を取付ける場合に具体化してもよい。また、この場合、３つ以上の基板を共通して係止可能な共通係止部を設けることとしてもよい。この場合の具体例としては、４つの基板が取付けられる場合において、４つの基板の中心に４方に係止

爪の形成された共通係止部を設けることが考えられる。

【０１１４】

（ｄ）１の基板に対し、複数の第１係止手段（又は第２係止手段）を設けることとしてもよい。

【０１１５】

（ｅ）上記実施の形態における位置決め突起１７１，１７２を省略することとしてもよい。

【０１１６】

（ｆ）上記実施の形態では、上記実施の形態では、可変表示装置１４の表示部として液晶表示部２０を採用している。しかし、これに限らず、他にも、ＣＲＴ、ドットマトリックス、ＬＥＤ（エレクトロルミネッセンス）、蛍光表示管等を可変表示装置１４の表示部として用いてもよい。

【０１１７】

（ｇ）上記実施の形態とは異なるタイプのパチンコ機等として実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される）として実施してもよい。また、大当り図柄が表示された後に所定の領域に遊技球を入賞させることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機として実施してもよい。さらに、羽根モノと称されるパチンコ機に適用することも可能である。また、パチンコ機以外にも、アレパチ、雀球、スロットマシン、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機等の各種遊技機として実施することも可能である。なお、スロットマシンは、例えばコインを投入して図柄有効ラインを決定させた状態で操作レバーを操作することにより図柄が変動され、ストップボタンを操作することにより図柄が停止されて確定される周知のものである。従って、スロットマシンの基本概念としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を変動表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の変動が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して或いは所定時間経過することにより識別情報の変動が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えたスロットマシン」となり、この場合、遊技媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【０１１８】

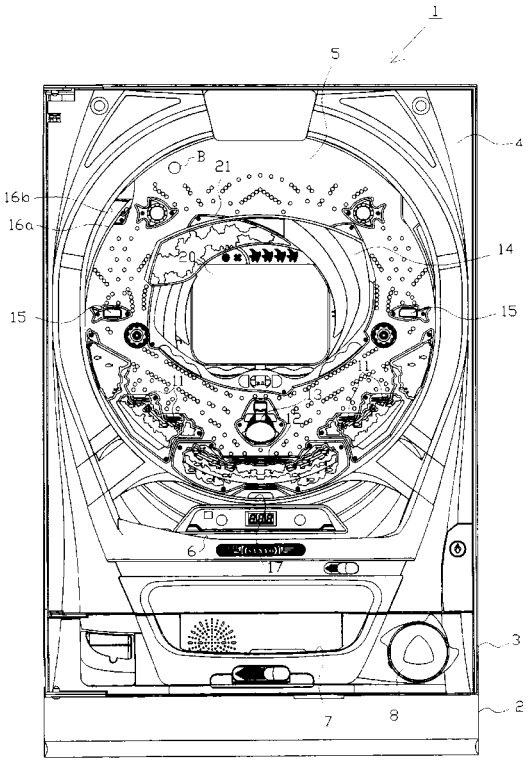
また、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する可変表示手段を備えており、遊技球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく、所定量の遊技球の投入の後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して或いは所定時間経過することにより図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に有利な大当たり状態が発生させられ、遊技者には、下部の受皿に多量の遊技球が払い出されるものである。

【０１１９】

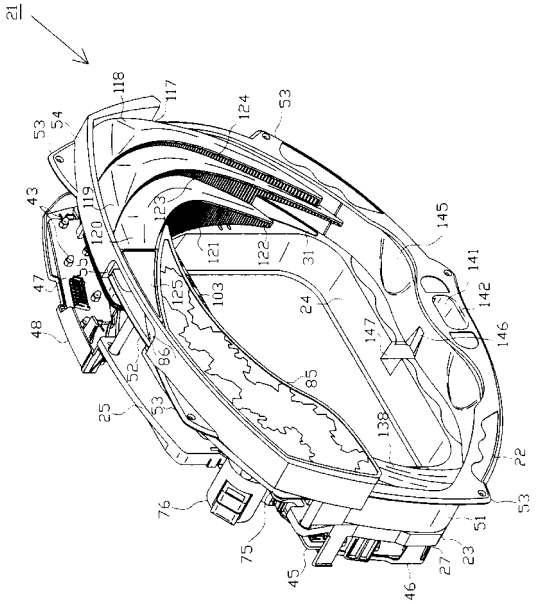
（ｈ）上記実施の形態では、第１の基板たる報知用ＬＥＤ基板１０４Ａは、第１係止部１６１によって一方の側部が係止され、共通係止部１６５によって他方の側部が係止され、また、第２の基板たる報知用ＬＥＤ基板１０４Ｂは、第２係止部１６２によって一方の側部が係止され、共通係止部１６５によって他方の側部が係止される構成が採用されている。すなわち、１つの共通係止部１６５によって、２つの基板１０４Ａ，１０４Ｂが並列状態で共通して係止される構成、換言すれば、１つの共通係止部１６５に２つの基板１０４Ａ，１０４Ｂが相対向して係止される構成が採用されている。これに対し、２つの基板が直列状態で共通して係止される構成、換言すれば、１つの共通係止部に２つの基板が並んで係止される構成が採用されてもよい。

【図面の簡単な説明】
【図１】一実施の形態におけるパチンコ機を示す正面図である。
【図２】センターフレームを示す斜視図である。
【図３】センターフレームを示す正面側分解斜視図である。
【図４】センターフレームを示す背面側分解斜視図である。
【図５】直線状凸部を示す図である。
【図６】駆動伝達部材等を示す図である。
【図７】基部と報知用ＬＥＤ基板との関係を示す正面側分解斜視図である。
【図８】基部と報知用ＬＥＤ基板との関係を示す背面側分解斜視図である。
【符号の説明】
１…遊技機としてのパチンコ機、５…遊技盤、１３…作動チャッカー、１４…可変表示装置、２０…液晶表示部、２１…枠体としてのセンターフレーム、２２…ベース枠を構成する前ベース枠、２３…後ベース枠、１００…報知表示部、１０１…取付部材としての基部、１０４Ａ，１０４Ｂ…基板としての報知用ＬＥＤ基板、１０５Ａ，１０５Ｂ…ＬＥＤ、１６１…係止手段、第１係止手段を構成する第１係止部、１６２…係止手段、第２係止手段を構成する第２係止部、１６３，１６４…係止爪、１６５…係止手段、共通係止手段を構成する共通係止部、１６６…台座部、１６７…係止爪、１７１，１７２…位置決め手段を構成する位置決め突起、１８１，１８２…位置決め手段を構成する位置決め孔。

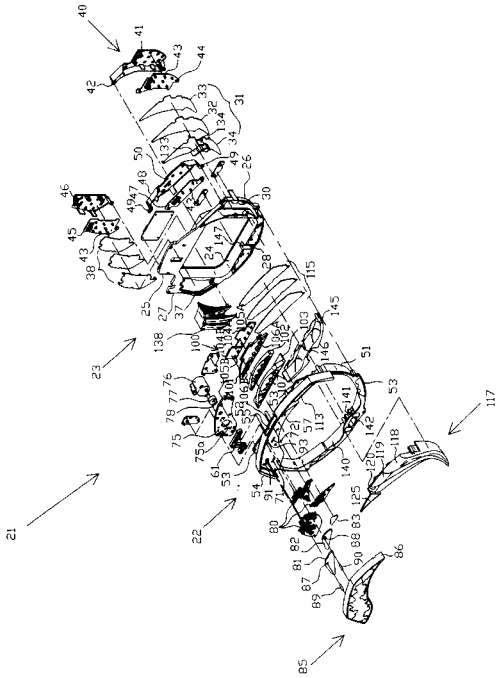
【図１】



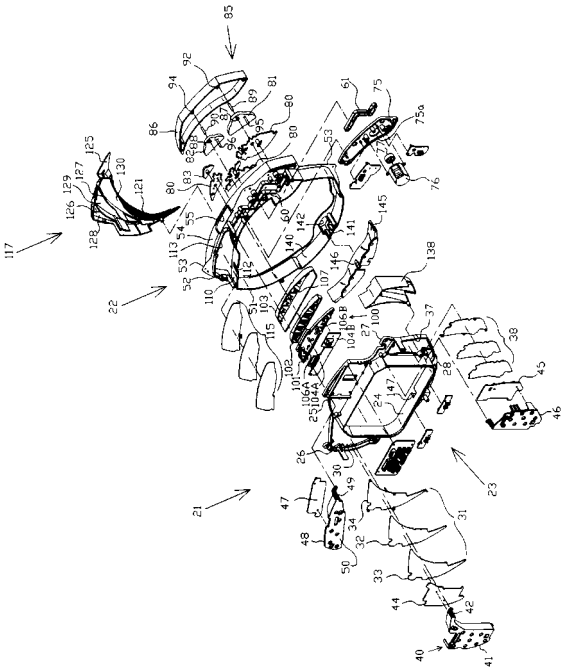
【図２】



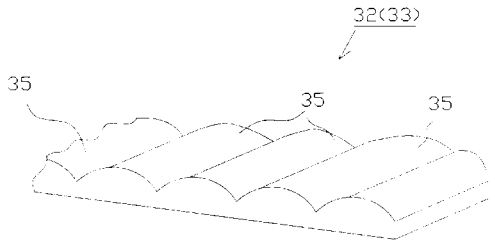
【図３】



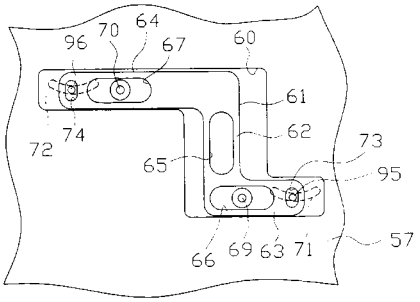
【図４】



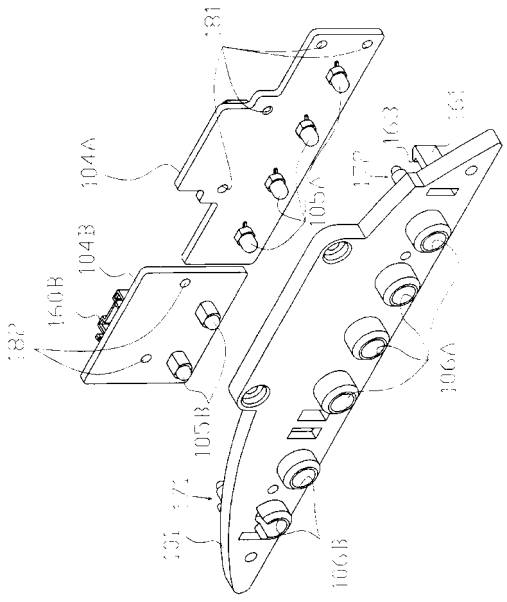
【図５】


32(33)
35
35
35

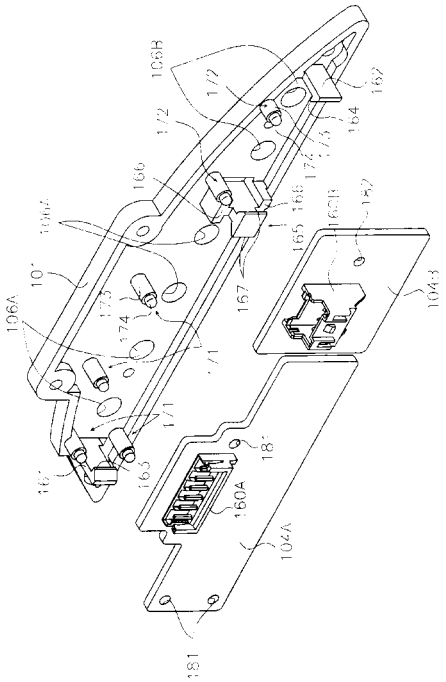
【図６】


96
70
64
67
60
61
62
73
95
72
74
65
66
69
63
71
57

【図７】


104A
104B
105A
105B
106A
106B
163

【図８】


106B
172
162
164
173
174
166
165
160B
182
104B
167
106A
101
171
163
161
181
160A
104A